

2 大気

2.1 大気質

(1) 現況調査

大気質の状況については、既存資料調査は図9.2.1-1に示す計画地周辺の一般環境大気測定局（一般局）である田島測定局、川崎測定局、幸測定局、潮田交流プラザ測定局、生麦小学校測定局及び自動車排出ガス測定局（自排局）である日進町測定局、市役所前測定局（令和3年2月1日に富士見公園測定局に移設）、富士見公園測定局、遠藤町測定局、下末吉小学校測定局とした。また、ダイオキシン類については、堤根処理センター周辺の調査地点である、京町小学校、南河原小学校、南加瀬小学校、さくら小学校も調査地点とした。

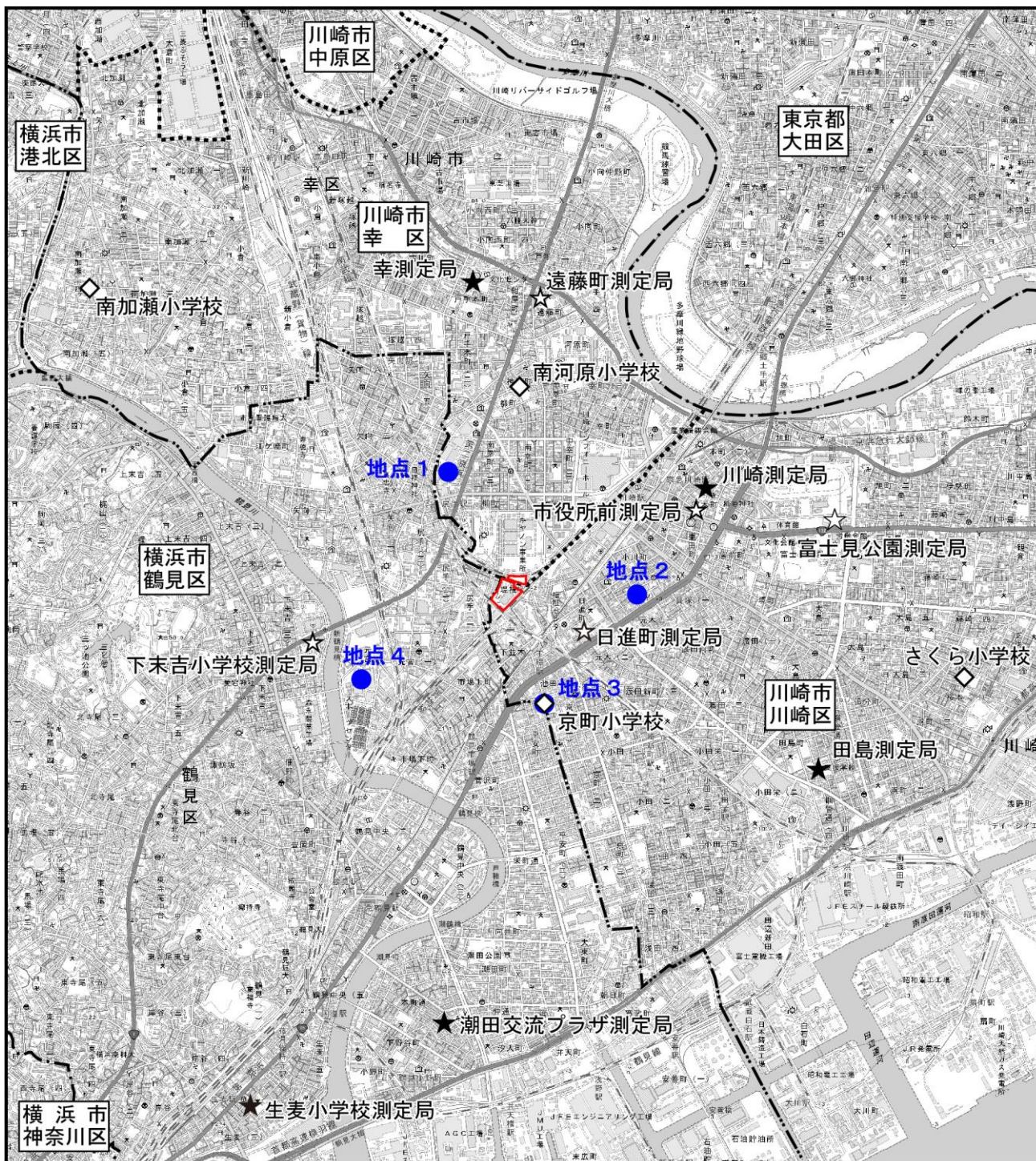
また、現地調査は表9.2.1-1及び図9.2.1-1、2に示すとおり、一般環境大気質は、計画地1地点及び計画地周辺4地点の計5地点、道路沿道大気質は工事用車両の走行ルート沿道のうち、計画地が面する市道堤根2号線沿道の1地点とした。

表9.2.1-1 大気質調査地点（現地調査）

区分	調査地点		調査項目
一般環境大気質	計画地		二酸化硫黄、二酸化窒素・窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀、微小粒子状物質
	地点1	南部市場	二酸化硫黄、二酸化窒素・窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀
	地点2	南町公園	
	地点3	京町小学校	
	地点4	元宮さわやか公園	
道路沿道大気質	地点1	市道堤根2号線沿道	二酸化窒素・窒素酸化物、浮遊粒子状物質

気象の状況については、既存資料調査は図9.2.1-1に示すとおり、風の環境の状況が計画地周辺の環境と類似していると考えられる幸測定局とした。また、計画地において気象の現地調査を実施した。

自動車交通量等の状況は、図9.2.1-2に示すとおり工事用車両の走行ルートとなる市道堤根2号線、県道川崎町田線、市道柳町8号線の4地点で現地調査を実施した。

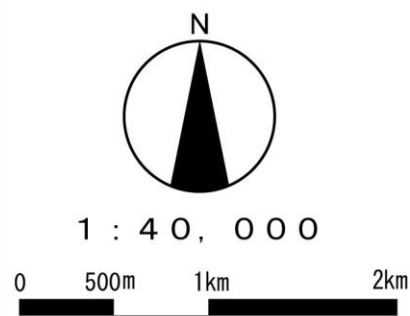


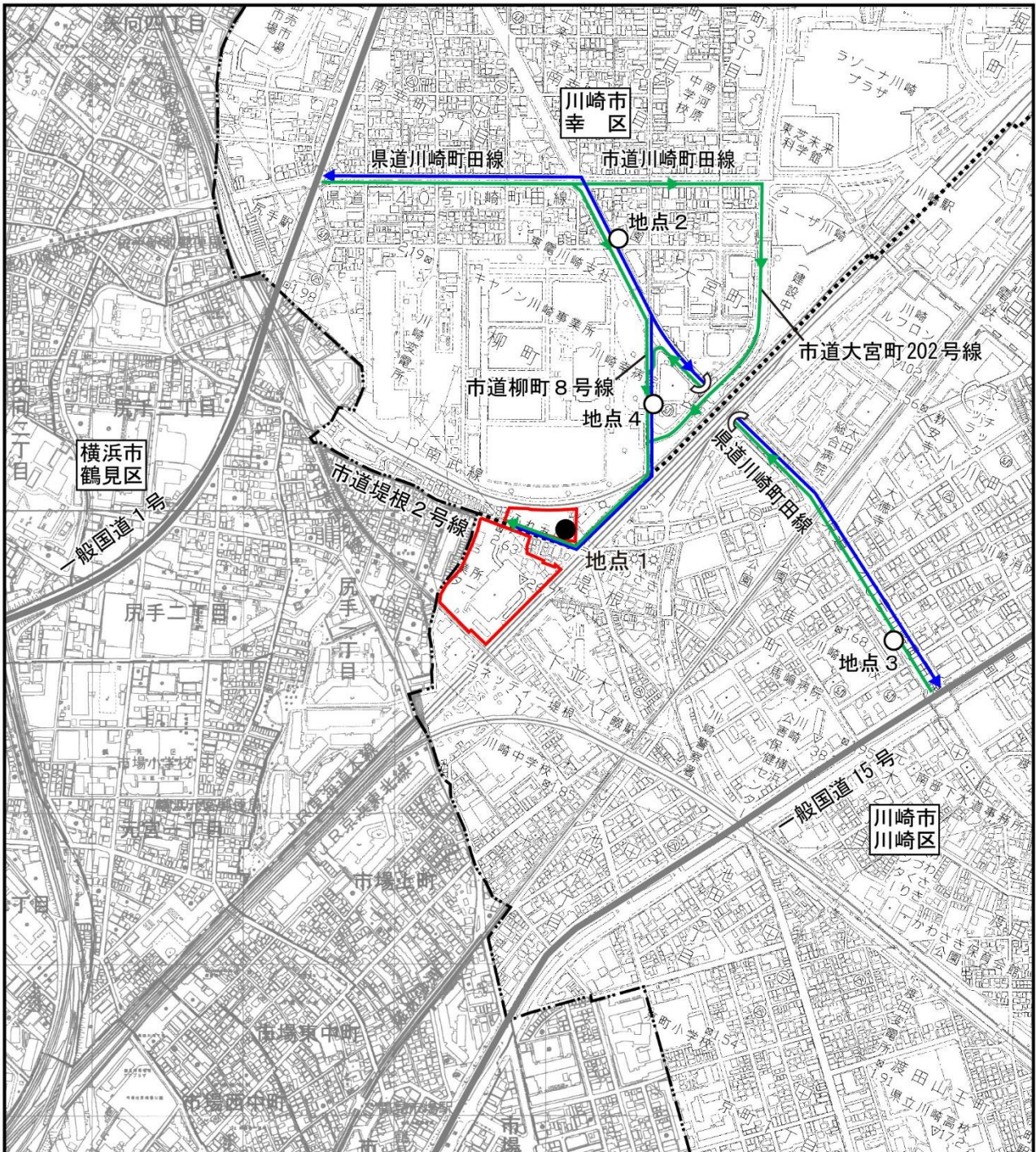
凡例

- 計画地 (一般環境大気質、地上気象、上層気象調査地点)
- 都県境
- 市境
- 区境
- 一般環境大気質・地上気象調査地点
- ★ 一般局
- ☆ 自排局
- ◇ 堤根処理センター周辺のダイオキシン類調査地点

この地図は、「電子地形図 25000 (川崎、横浜東部)」(国土地理院)を使用したものである。

図9.2.1-1 大気質及び気象調査地点図





凡例

- 計画地
- ← 工事用車両走行ルート（搬入）
- 市境
- ← 工事用車両走行ルート（搬出）
- 区境
- 道路沿道大気質調査・予測地点、交通量等調査地点
- 道路沿道大気質予測地点、交通量等調査地点



1 : 10,000



この地図は、「川崎市1：10,000地形図（川崎区図）」（川崎市）、
「横浜市行政区図（鶴見区図）」（横浜市）を使用したものである。

図9.2.1-2 道路沿道大気質調査地点図

ア 大気質の状況

(ア) 既存資料調査

a 二酸化硫黄

令和3年度の二酸化硫黄の測定結果は表 9.2.1-2 に示すとおりである。令和3年度の測定結果（日平均値の2%除外値）をみると、いずれの測定局も環境基準を達成している。

表9.2.1-2 二酸化硫黄(SO₂)測定結果(令和3年度)

測定局		環境基準の評価									年平均値 ppm
		長期的評価				短期的評価					
		日平均値の 2%除外値 ppm	日平均値が 0.04ppmを超えた 日が2日以上連続 の有無とその回数		評価 ^{注)} ○×	1時間値が0.1ppm を超えた時間数と その割合		日平均値が0.1ppm を超えた日数と その割合		評価 ^{注)} ○×	
有無	回		時間	%		日	%				
一般局	田島	0.002	無	0	○	0	0	0	0	○	0.001
	川崎	0.002	無	0	○	0	0	0	0	○	0.001
	幸	0.002	無	0	○	0	0	0	0	○	0.001
	潮田交流プラザ	0.004	無	0	○	0	0	0	0	○	0.002

注) 評価については、日平均値の2%除外値が環境基準(0.04ppm以下)を達成している場合を○、非達成の場合を×で示している。

出典:「令和4年度(2022) 環境事業概要-公害編-」(川崎市)

「令和3年度 横浜市大気汚染調査報告書第62報」(横浜市)

b 二酸化窒素

令和3年度の二酸化窒素の測定結果は表 9.2.1-3 に示すとおりである。令和3年度の測定結果（日平均値の98%値）をみると、いずれの測定局も環境基準を達成している。

表9.2.1-3 二酸化窒素(NO₂)測定結果(令和3年度)

測定局		環境基準の評価		環境基準値に適合しなかった 日数とその割合		年平均値 ppm
		日平均値の 年間98%値 ppm	評価 ^{注1)} ○×			
		日	%			
一般局	田島 ^{注2)}	(0.030)	—	(0)	(0)	(0.014)
	川崎	0.037	○	0	0	0.017
	幸	0.032	○	0	0	0.014
	潮田交流プラザ	0.034	○	0	0	0.016
	生麦小学校	0.034	○	0	0	0.015
自排局	日進町	0.035	○	0	0	0.017
	富士見公園	0.041	○	0	0	0.015
	遠藤町	0.041	○	0	0	0.023
	下末吉小学校	0.038	○	0	0	0.019

注1) 評価については、日平均値の年間98%値が環境基準(0.04ppm~0.06ppm以下)を達成している場合を○、非達成の場合を×で示している。

注2) 測定装置故障により、有効測定時間が年間6,000時間に満たなかったことから、環境基準の評価対象外であり、()内の数値は参考値である。

出典:「令和4年度(2022) 環境局事業概要-公害編-」(川崎市)

「令和3年度 横浜市大気汚染調査報告書第62報」(横浜市)

c 浮遊粒子状物質

令和3年度の浮遊粒子状物質の測定結果は表9.2.1-4に示すとおりである。令和3年度の測定結果（日平均値の2%除外値）をみると、いずれの測定局も環境基準を達成している。

表9.2.1-4 浮遊粒子状物質(SPM)測定結果（令和3年度）

測定局	環境基準の評価							年平均値 mg/m ³	
	長期的評価				短期的評価				
	日平均値の 2%除外値 mg/m ³	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日が2日以上連続の 有無とその回数		評価 ^{注)} ○×	1時間値が0.20 mg/m ³ を超えた時 間数とその割合		評価 ^{注)} ○×		
		有無	回		時間	%			
一般局	田島	0.032	無	0	○	0	0	○	0.014
	川崎	0.028	無	0	○	0	0	○	0.011
	幸	0.030	無	0	○	0	0	○	0.012
	潮田交流プラザ	0.033	無	0	○	0	0	○	0.015
	生麦小学校	0.033	無	0	○	0	0	○	0.016
自排局	日進町	0.027	無	0	○	0	0	○	0.011
	富士見公園	0.041	無	0	○	0	0	○	0.015
	遠藤町	0.027	無	0	○	0	0	○	0.011
	下末吉小学校	0.033	無	0	○	0	0	○	0.014

注) 評価については、日平均値の2%除外値が環境基準（長期的評価）を達成している場合を○、非達成の場合を×で示している。

出典：「令和4年度（2022）環境局事業概要－公害編－」（川崎市）
「令和3年度 横浜市大気汚染調査報告書第62報」（横浜市）

d ダイオキシン類

令和3年度のダイオキシン類の測定結果は表9.2.1-5に示すとおりである。令和3年度の測定結果をみると、環境基準を達成している。

また、堤根処理センター周辺の4地点における平成30年度の調査結果は表9.2.1-6に示すとおりであり、いずれの地点も環境基準を達成している。

表9.2.1-5 ダイオキシン類(DXN)測定結果（令和3年度）

区分	試料採取日 調査地点	測定結果 (pg-TEQ/m ³)		年平均値	環境基準 達成状況
		R3. 8. 19~8. 26	R4. 1. 20~1. 27		
一般局	大師測定局	0.018	0.012	0.015	○

注) 年平均値が環境基準 (0.6pg-TEQ/m³) を達成している場合を○、非達成の場合を×で示している。

出典：「令和4年度 環境局事業概要－公害編－」（令和5年3月 川崎市）

表9.2.1-6 ダイオキシン類(DXN)測定結果（堤根処理センター周辺^{注1)}）

区分	調査地点		試料採取日	環境基準 達成状況
			H30. 7. 20~7. 27	
堤根処理 センター 周辺	川崎区	京町小学校	0.021 pg-TEQ/m ³	○
	幸区	南河原小学校	0.014 pg-TEQ/m ³	○
	幸区	南加瀬小学校	0.011 pg-TEQ/m ^{3注2)}	—
	川崎区	さくら小学校	0.048 pg-TEQ/m ³	○

注1) ごみ処理センター周辺の環境濃度を把握するため、堤根処理センター周辺で調査を実施していた。なお、ごみ処理センター周辺での調査については、環境基準と比較して低濃度かつ測定局等と同程度の濃度で推移していたことから、平成30年度で終了している。

注2) 試料採取期間中に採取容器が異常停止したことにより、総吸引量がおおよそ3割不足していたため、参考値としている。

出典：「平成30年度 大気環境及び水環境の状況等について」（令和元年7月 川崎市）

e 微小粒子状物質

令和3年度の微小粒子状物質の測定結果は表 9.2.1-7 に示すとおりである。令和3年度の測定結果をみると、いずれの測定局も環境基準を達成している。

表9.2.1-7 微小粒子状物質(PM2.5)測定結果(令和3年度)

測定局		環境基準の評価		
		年平均値	日平均値の年間98%値	評価 ^{注)}
		$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	○×
一般局	田島	11.4	25.1	○
	川崎	9.9	22.3	○
	幸	7.6	18.3	○
	潮田交流プラザ	9.2	21.2	○
自排局	日進町	8.3	18.8	○
	富士見公園	9.6	22.9	○

注) 評価については、年平均値及び日平均値の年間98%値が環境基準を達成している場合を○、非達成の場合を×で示している。

出典:「令和4年度(2022) 環境局事業概要-公害編-」(川崎市)
「令和3年度 横浜市大気汚染調査報告書第62報」(横浜市)

(イ) 現地調査

a 一般環境大気質

(a) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の調査結果は表 9. 2. 1-8 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で 1 時間値及び日平均値が環境基準値を下回っていた。また、各調査地点の年間平均値は、0.001ppm で調査地点間の差はみられなかった。

表9. 2. 1-8 二酸化硫黄 (SO₂) 調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1 時間値の最高値	日平均値の最高値	1 時間値が 0. 1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0. 04ppm を超えた日数とその割合	
			日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%
計画地		秋季	7	168	0. 001	0. 009	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		冬季	7	168	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		春季	7	168	0. 001	0. 005	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		夏季	7	168	0. 000	0. 002	0. 000	0	0. 0	0	0. 0
		年間	28	672	0. 001	0. 009	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
地点 1	南部市場	秋季	7	168	0. 001	0. 009	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		冬季	7	168	0. 001	0. 004	0. 001	0	0. 0	0	0. 0
		春季	7	168	0. 001	0. 005	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		夏季	7	168	0. 001	0. 002	0. 001	0	0. 0	0	0. 0
		年間	28	672	0. 001	0. 009	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
地点 2	南町公園	秋季	7	168	0. 002	0. 009	0. 003	0	0. 0	0	0. 0
		冬季	7	168	0. 001	0. 008	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		春季	7	168	0. 001	0. 005	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		夏季	7	168	0. 001	0. 002	0. 001	0	0. 0	0	0. 0
		年間	28	672	0. 001	0. 009	0. 003	0	0. 0	0	0. 0
地点 3	京町小学校	秋季	7	168	0. 001	0. 008	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		冬季	7	168	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		春季	7	168	0. 001	0. 005	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		夏季	7	168	0. 001	0. 003	0. 001	0	0. 0	0	0. 0
		年間	28	672	0. 001	0. 008	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
地点 4	元宮さわやか公園	秋季	7	168	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		冬季	7	168	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		春季	7	168	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0
		夏季	7	168	0. 001	0. 002	0. 001	0	0. 0	0	0. 0
		年間	28	672	0. 001	0. 006	0. 002	0	0. 0	0	0. 0

注) 環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0. 04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0. 1ppm 以下であること。

(b) 二酸化窒素

二酸化窒素の調査結果は表 9.2.1-9 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で日平均値が環境基準値を下回っていた。

また、各調査地点の年間平均値は、0.016ppm～0.018ppm で調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9.2.1-9 二酸化窒素(NO₂)調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合	
								日	%	日	%
計画地		秋季	7	168	0.019	0.053	0.028	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.023	0.063	0.037	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.014	0.049	0.028	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.011	0.025	0.014	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.063	0.037	0	0.0	0	0.0
地点1	南部市場	秋季	7	168	0.018	0.053	0.028	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.021	0.058	0.035	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.014	0.042	0.027	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.010	0.024	0.014	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.016	0.058	0.035	0	0.0	0	0.0
地点2	南町公園	秋季	7	168	0.021	0.059	0.031	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.023	0.093	0.038	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.016	0.059	0.029	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.012	0.025	0.015	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.018	0.093	0.038	0	0.0	0	0.0
地点3	京町小学校	秋季	7	168	0.019	0.056	0.029	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.023	0.062	0.037	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.015	0.052	0.029	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.011	0.026	0.014	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.062	0.037	0	0.0	0	0.0
地点4	元宮さわやか公園	秋季	7	168	0.019	0.052	0.027	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.023	0.052	0.034	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.014	0.043	0.027	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.010	0.024	0.014	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.052	0.034	0	0.0	0	0.0

注) 環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmのゾーン内又はそれ以下であること。

(c) 一酸化窒素及び窒素酸化物

一酸化窒素及び窒素酸化物の調査結果は表 9.2.1-10 に示すとおりである。

各調査地点の年間平均値は、一酸化窒素で 0.004~0.005ppm、窒素酸化物で 0.020~0.023ppm であり、いずれの項目も調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9.2.1-10 一酸化窒素(NO)及び窒素酸化物(NO_x)調査結果

調査地点		調査 時期	有効 測定 日数	測定 時間	一酸化窒素			窒素酸化物			
					期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	期間 平均値	1時間値 の最高値	日平均値 の最高値	NO ₂ / NO+NO ₂
					ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	%
計画地		秋季	7	168	0.003	0.057	0.007	0.022	0.088	0.033	85.5
		冬季	7	168	0.011	0.108	0.036	0.034	0.170	0.073	67.5
		春季	7	168	0.002	0.021	0.005	0.016	0.060	0.033	87.8
		夏季	7	168	0.003	0.019	0.006	0.013	0.035	0.014	78.0
		年間	28	672	0.005	0.108	0.036	0.021	0.170	0.073	79.7
地点1	南部市場	秋季	7	168	0.002	0.011	0.004	0.020	0.059	0.031	90.1
		冬季	7	168	0.011	0.113	0.036	0.032	0.171	0.070	66.7
		春季	7	168	0.002	0.025	0.004	0.016	0.067	0.031	89.8
		夏季	7	168	0.003	0.028	0.006	0.013	0.044	0.014	79.6
		年間	28	672	0.005	0.113	0.036	0.020	0.171	0.070	81.6
地点2	南町公園	秋季	7	168	0.003	0.036	0.006	0.024	0.095	0.037	88.1
		冬季	7	168	0.010	0.132	0.034	0.033	0.225	0.072	68.7
		春季	7	168	0.002	0.019	0.005	0.018	0.062	0.034	87.7
		夏季	7	168	0.003	0.026	0.007	0.015	0.042	0.015	79.7
		年間	28	672	0.005	0.132	0.034	0.023	0.225	0.072	81.1
地点3	京町小学校	秋季	7	168	0.002	0.028	0.005	0.021	0.084	0.034	90.3
		冬季	7	168	0.011	0.096	0.035	0.034	0.155	0.072	67.5
		春季	7	168	0.002	0.019	0.004	0.017	0.060	0.033	90.8
		夏季	7	168	0.002	0.022	0.005	0.013	0.039	0.014	82.5
		年間	28	672	0.004	0.096	0.035	0.021	0.155	0.072	82.8
地点4	元宮さわやか公園	秋季	7	168	0.002	0.015	0.004	0.021	0.063	0.030	88.9
		冬季	7	168	0.011	0.102	0.032	0.033	0.154	0.066	67.7
		春季	7	168	0.002	0.026	0.005	0.016	0.069	0.032	87.7
		夏季	7	168	0.002	0.021	0.006	0.013	0.038	0.014	81.2
		年間	28	672	0.004	0.102	0.032	0.021	0.154	0.066	81.4

(d) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の調査結果は表 9.2.1-11 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で 1 時間値及び日平均値が環境基準値を下回っていた。また、各調査地点の年間平均値は、0.016～0.017mg/m³ で調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9.2.1-11 浮遊粒子状物質 (SPM) 調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合	
								時間	%	日	%
計画地		秋季	7	168	0.014	0.035	0.018	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.019	0.040	0.026	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.021	0.043	0.029	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.014	0.025	0.020	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.043	0.029	0	0.0	0	0.0
地点 1	南部市場	秋季	7	168	0.015	0.045	0.020	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.018	0.048	0.026	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.015	0.039	0.022	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.016	0.030	0.021	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.016	0.048	0.026	0	0.0	0	0.0
地点 2	南町公園	秋季	7	168	0.017	0.039	0.020	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.015	0.041	0.021	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.019	0.043	0.026	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.016	0.060	0.023	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.060	0.026	0	0.0	0	0.0
地点 3	京町小学校	秋季	7	168	0.013	0.039	0.017	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.018	0.045	0.026	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.017	0.038	0.025	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.016	0.030	0.022	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.016	0.045	0.026	0	0.0	0	0.0
地点 4	元宮さわやか公園	秋季	7	168	0.017	0.036	0.022	0	0.0	0	0.0
		冬季	7	168	0.019	0.042	0.025	0	0.0	0	0.0
		春季	7	168	0.016	0.046	0.024	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.017	0.029	0.022	0	0.0	0	0.0
		年間	28	672	0.017	0.046	0.025	0	0.0	0	0.0

注) 環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

(e) 塩化水素

塩化水素の調査結果は表 9. 2. 1-12 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で目標環境濃度を下回っていた。また、各調査地点の年間平均値は、0. 00018~0. 00024ppm で調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9. 2. 1-12 塩化水素(HCl)調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	期間平均値	調査結果の最高値
			日	ppm	ppm
計画地		秋季	7	0. 00015	0. 00025
		冬季	7	0. 00010	0. 00020
		春季	7	0. 00017	0. 00050
		夏季	7	0. 00050	0. 00077
		年間	28	0. 00023	0. 00077
地点 1	南部市場	秋季	7	0. 00023	0. 00041
		冬季	7	0. 00011	0. 00021
		春季	7	0. 00018	0. 00050
		夏季	7	0. 00044	0. 00067
		年間	28	0. 00024	0. 00067
地点 2	南町公園	秋季	7	0. 00015	0. 00027
		冬季	7	0. 00007	0. 00010
		春季	7	0. 00010	0. 00028
		夏季	7	0. 00039	0. 00064
		年間	28	0. 00018	0. 00064
地点 3	京町小学校	秋季	7	0. 00015	0. 00028
		冬季	7	0. 00007	0. 00008
		春季	7	0. 00012	0. 00028
		夏季	7	0. 00039	0. 00073
		年間	28	0. 00018	0. 00073
地点 4	元宮さわやか公園	秋季	7	0. 00017	0. 00032
		冬季	7	0. 00012	0. 00027
		春季	7	0. 00015	0. 00040
		夏季	7	0. 00049	0. 00090
		年間	28	0. 00023	0. 00090

注) 目標環境濃度 : 0. 02ppm 以下。

(f) ダイオキシン類

ダイオキシン類の調査結果は表 9.2.1-13 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で環境基準値を下回っていた。また、各調査地点の年間平均値は、0.014~0.091pg-TEQ/m³ で調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9.2.1-13 ダイオキシン類(DXN)調査結果

調査地点		調査時期	調査結果 (毒性等量)
			pg-TEQ/m ³
計画地		秋季	0.013
		冬季	0.027
		春季	0.0068
		夏季	0.0093
		年間	0.014
地点 1	南部市場	秋季	0.012
		冬季	0.028
		春季	0.0087
		夏季	0.012
		年間	0.015
地点 2	南町公園	秋季	0.038
		冬季	0.058
		春季	0.012
		夏季	0.012
		年間	0.030
地点 3	京町小学校	秋季	0.016
		冬季	0.330
		春季	0.0089
		夏季	0.0093
		年間	0.091
地点 4	元宮さわやか公園	秋季	0.011
		冬季	0.017
		春季	0.011
		夏季	0.016
		年間	0.014

注) 環境基準：年間平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であること。

(g) 水銀

水銀の調査結果は表 9. 2. 1-14 に示すとおりである。

全地点において、すべての調査時期で指針値を下回っていた。また、各調査地点の年間平均値は、0. 0022～0. 0024 $\mu\text{g-Hg}/\text{m}^3$ で調査地点間の大きな差はみられなかった。

表9. 2. 1-14 水銀(Hg) 調査結果

調査地点		調査時期	有効	期間	調査結果
			測定日数	平均値	の最高値
			日	$\mu\text{g-Hg}/\text{m}^3$	$\mu\text{g-Hg}/\text{m}^3$
計画地		秋季	7	0. 0024	0. 0028
		冬季	7	0. 0024	0. 0031
		春季	7	0. 0022	0. 0025
		夏季	7	0. 0020	0. 0023
		年間	28	0. 0023	0. 0031
地点 1	南部市場	秋季	7	0. 0027	0. 0030
		冬季	7	0. 0024	0. 0031
		春季	7	0. 0020	0. 0024
		夏季	7	0. 0021	0. 0024
		年間	28	0. 0023	0. 0031
地点 2	南町公園	秋季	7	0. 0024	0. 0031
		冬季	7	0. 0023	0. 0033
		春季	7	0. 0024	0. 0030
		夏季	7	0. 0022	0. 0027
		年間	28	0. 0023	0. 0033
地点 3	京町小学校	秋季	7	0. 0026	0. 0029
		冬季	7	0. 0024	0. 0034
		春季	7	0. 0023	0. 0024
		夏季	7	0. 0023	0. 0026
		年間	28	0. 0024	0. 0034
地点 4	元宮さわやか公園	秋季	7	0. 0025	0. 0034
		冬季	7	0. 0023	0. 0030
		春季	7	0. 0021	0. 0023
		夏季	7	0. 0019	0. 0022
		年間	28	0. 0022	0. 0034

注) 指針値 : 0. 04 $\mu\text{g-Hg}/\text{m}^3$ 以下。

(h) 微小粒子状物質

微小粒子状物質の調査結果は表 9.2.1-15 に示すとおりである。

日平均値の最高値は、11.8~17.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ で、すべての調査時期で環境基準値を下回っていた。また、年間平均値は、10.0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ で環境基準値を下回っていた。

表9.2.1-15 微小粒子状物質(PM2.5)調査結果

調査地点	調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	日平均値の最高値	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
		日	時間	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%
計画地	秋季	7	168	8.7	11.8	0	0.0
	冬季	7	168	11.4	17.5	0	0.0
	春季	7	168	10.3	16.8	0	0.0
	夏季	7	168	9.5	13.3	0	0.0
	年間	28	672	10.0	17.5	0	0.0

注) 環境基準：1年平均値が 15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

b 道路沿道大気質

(a) 二酸化窒素

二酸化窒素の調査結果は表 9.2.1-16 に示すとおりである。

いずれの調査時期も日平均値が環境基準値を下回っていた。また、年間平均値は、0.016ppm であった。

表9.2.1-16 二酸化窒素(NO₂)調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合	
			日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%
地点 1	市道堤根 2 号線沿道	冬季	7	168	0.022	0.057	0.035	0	0.0	0	0.0
		夏季	7	168	0.010	0.025	0.013	0	0.0	0	0.0
		年間	14	336	0.016	0.057	0.035	0	0.0	0	0.0

注) 環境基準：1時間値の1日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。

(b) 一酸化窒素及び窒素酸化物

一酸化窒素及び窒素酸化物の調査結果は表 9.2.1-17 に示すとおりである。

年間平均値は一酸化窒素が 0.007ppm、窒素酸化物が 0.023ppm であった。

表9.2.1-17 一酸化窒素(NO)及び窒素酸化物(NO_x)調査結果

調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	一酸化窒素			窒素酸化物			
					期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	NO ₂ /NO+NO ₂
					ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	%
地点 1	市道堤根 2 号線沿道	冬季	7	168	0.011	0.106	0.034	0.033	0.163	0.069	66.5
		夏季	7	168	0.002	0.020	0.005	0.013	0.036	0.019	81.7
		年間	14	336	0.007	0.106	0.034	0.023	0.163	0.069	74.1

(c) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の調査結果は表 9. 2. 1-18 に示すとおりである。

いずれの調査時期も 1 時間値及び日平均値が環境基準値を下回っていた。また、年間平均値は、0. 018mg/m³であった。

表9. 2. 1-18 浮遊粒子状物質 (SPM) 調査結果

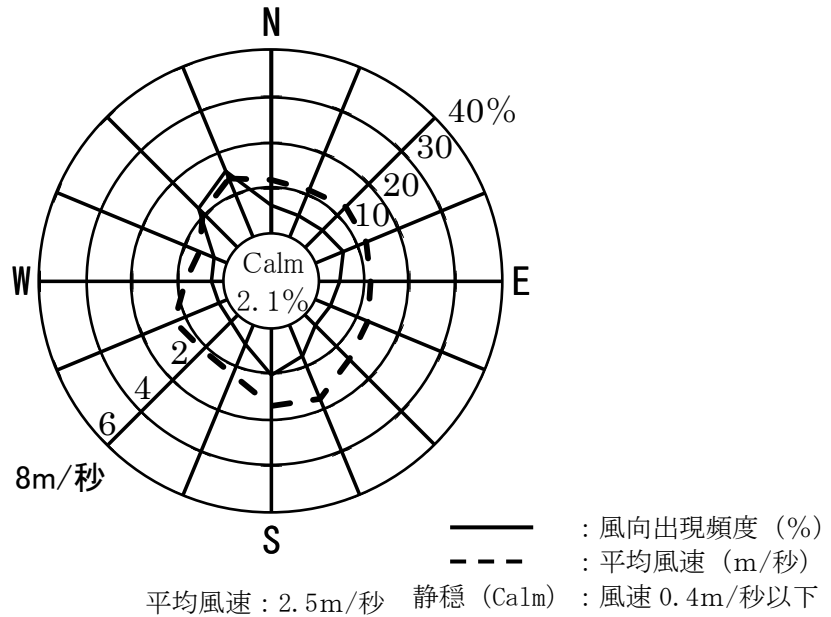
調査地点		調査時期	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値の最高値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合	
							時間	%		日	%
地点 1	市道堤根 2 号線沿道	冬季	7	168	0.016	0.043	0	0.0	0.022	0	0.0
		夏季	7	168	0.019	0.033	0	0.0	0.024	0	0.0
		年間	14	336	0.018	0.043	0	0.0	0.024	0	0.0

注) 環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

イ 気象の状況

(ア) 既存資料調査

幸測定局の平成3年度の風配図は、図 9. 2. 1-3 に示すとおりである。最多風向は北北西で、年平均風速は約 2.5m/秒である。



出典：「川崎市の大気データ」(川崎市ホームページ)

図9. 2. 1-3 風配図 (令和 3 年度)

(イ) 現地調査

a 風向、風速

計画地における1年間連続の地上気象調査による風向、風速の調査結果は表9.2.1-19に示すとおりである。また、風配図は図9.2.1-4に示すとおりである。

年間平均風速は3.3m/秒であり、最多風向は北北西（NNW）であった。

表9.2.1-19 風向、風速調査結果（1年間連続調査）

調査地点	調査期間	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	1時間値の最低値	日平均値の最高値	日平均値の最低値	最大風速時の風向	最多風向	最多風向の出現率	静穏の出現率	
		日	時間	m/秒	m/秒	m/秒	m/秒	m/秒	16方位	16方位	%	%	
計画地	令和2年	9月	30	720	3.5	8.6	0.6	6.3	1.7	N	N	19.6	0.0
		10月	31	744	3.2	7.8	0.3	5.2	2.0	NNW	NNW	33.3	0.1
		11月	30	720	3.2	8.8	0.4	5.8	1.8	N	NNW	30.0	0.4
		12月	31	744	2.7	11.5	0.3	5.1	1.6	NNW	NNW	30.2	0.9
	令和3年	1月	30	736	3.0	12.2	0.2	5.9	1.6	SSW	NNW	31.8	1.1
		2月	28	672	3.8	10.8	0.4	5.9	2.2	N	NNW	22.8	0.1
		3月	31	744	4.0	11.5	0.5	7.1	2.3	N	NNW	21.0	0.0
		4月	30	720	3.7	11.5	0.4	5.5	2.6	S	S	18.6	0.3
		5月	31	744	3.6	9.5	0.4	5.9	1.5	S	S	28.9	0.3
		6月	30	720	3.0	11.2	0.5	6.5	1.8	S	SSE	25.8	0.0
		7月	31	744	2.7	8.0	0.2	4.8	1.2	NNW	SSE	21.0	0.7
		8月	31	744	3.7	11.8	0.4	7.6	2.3	S	S	25.3	0.3
	年間		364	8752	3.3	12.2	0.2	7.6	1.2	SSW	NNW	19.0	0.4

注) 令和3年1月24日(日)13時~20時は、堤根処理センター全停電のため欠測。

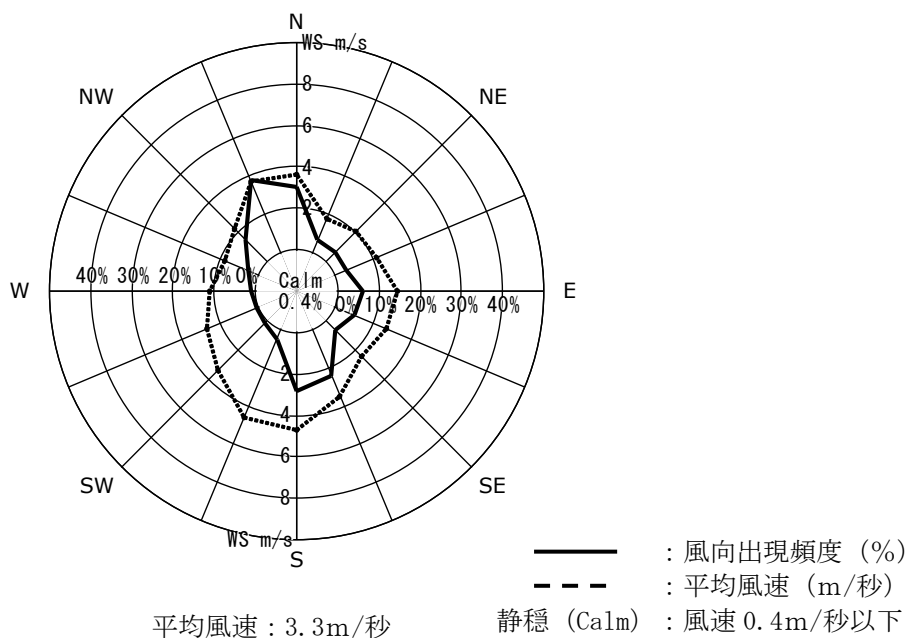


図9.2.1-4 風配図

b 気温

気温の調査結果は表 9.2.1-20 に示すとおりである。

年平均気温は 17.7℃であり、年間の最高値は 37.6℃、最低値は-0.7℃であった。

表9.2.1-20 気温調査結果（1年間連続調査）

調査地点	調査期間	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値 の最高値	1時間値 の最低値	日平均値 の最高値	日平均値 の最低値	
		日	時間	℃	℃	℃	℃	℃	
計画地	令和2年	9月	30	720	25.2	34.7	16.5	30.2	19.3
		10月	31	744	18.5	27.6	11.8	23.4	13.4
		11月	29	715	15.2	24.4	7.2	22.3	10.8
		12月	31	744	8.7	16.9	1.0	12.1	4.4
	令和3年	1月	31	744	6.3	18.3	-0.7	10.7	3.4
		2月	28	672	9.4	21.8	1.2	15.7	5.1
		3月	31	744	13.5	23.4	4.8	18.7	7.4
		4月	30	720	16.0	27.6	7.6	19.8	11.3
		5月	31	744	20.4	28.3	13.3	23.8	16.5
		6月	30	720	23.5	31.3	17.4	25.9	21.3
		7月	31	744	26.7	34.6	20.2	29.8	20.6
		8月	31	744	28.4	37.6	19.2	32.2	20.0
年間	364	8755	17.7	37.6	-0.7	32.2	3.4		

c 湿度

湿度の調査結果は表 9.2.1-21 に示すとおりである。

年平均湿度は 63%であり、年間の最高値は 100%、最低値は 8%であった。

表9.2.1-21 湿度調査結果（1年間連続調査）

調査地点	調査期間	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値 の最高値	1時間値 の最低値	日平均値 の最高値	日平均値 の最低値	
		日	時間	%	%	%	%	%	
計画地	令和2年	9月	30	720	76	96	37	91	58
		10月	31	744	67	96	26	95	40
		11月	29	715	59	93	23	85	40
		12月	31	744	56	93	13	83	30
	令和3年	1月	31	744	52	92	12	88	29
		2月	28	672	44	97	14	86	27
		3月	31	744	58	96	19	90	34
		4月	30	720	55	97	8	91	28
		5月	31	744	67	99	19	92	36
		6月	30	720	70	98	26	90	49
		7月	31	744	77	100	36	98	59
		8月	31	744	75	99	38	98	52
年間	364	8755	63	100	8	98	27		

注) 令和2年11月9日(月)10時~14時は、堤根処理センター内の樹木伐採作業のため欠測。

(2) 環境保全目標

環境保全目標は、地域環境管理計画の地域別環境保全水準を参考に、表9.2.1-22に示すとおり設定した。

表9.2.1-22 大気質に係る環境保全目標

項目		環境保全目標	具体的な数値等
工事中	二酸化窒素	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 日平均値が0.04ppm～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
		短期将来濃度	中央公害対策審議会答申による短期暴露指針値（1時間値）を超えないこと。 0.1ppm～0.2ppm 以下
	浮遊粒子状物質	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 日平均値が0.10mg/m ³ 以下
		短期将来濃度	環境基準を超えないこと。 1時間値が0.20mg/m ³ 以下
供用時	二酸化硫黄	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 日平均値が0.04ppm 以下
		短期将来濃度	環境基準を超えないこと。 1時間値が0.10ppm 以下
	二酸化窒素	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 日平均値が0.04ppm～0.06ppmのゾーン内又はそれ以下
		短期将来濃度	中央公害対策審議会答申による短期暴露指針値（1時間値）を超えないこと。 0.1ppm～0.2ppm 以下
	浮遊粒子状物質	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 日平均値が0.10mg/m ³ 以下
		短期将来濃度	環境基準を超えないこと。 1時間値が0.20mg/m ³ 以下
	塩化水素	短期将来濃度	目標環境濃度を超えないこと。 0.02ppm 以下
	ダイオキシン類	長期将来濃度	環境基準を超えないこと。 年間平均値が0.6pg-TEQ/m ³ 以下
水銀	長期将来濃度	指針値を超えないこと。 0.04μg-Hg/m ³ 以下	

(3) 予測及び評価

ア 建設機械の稼働に係る影響

(ア) 予測

a 長期将来濃度予測

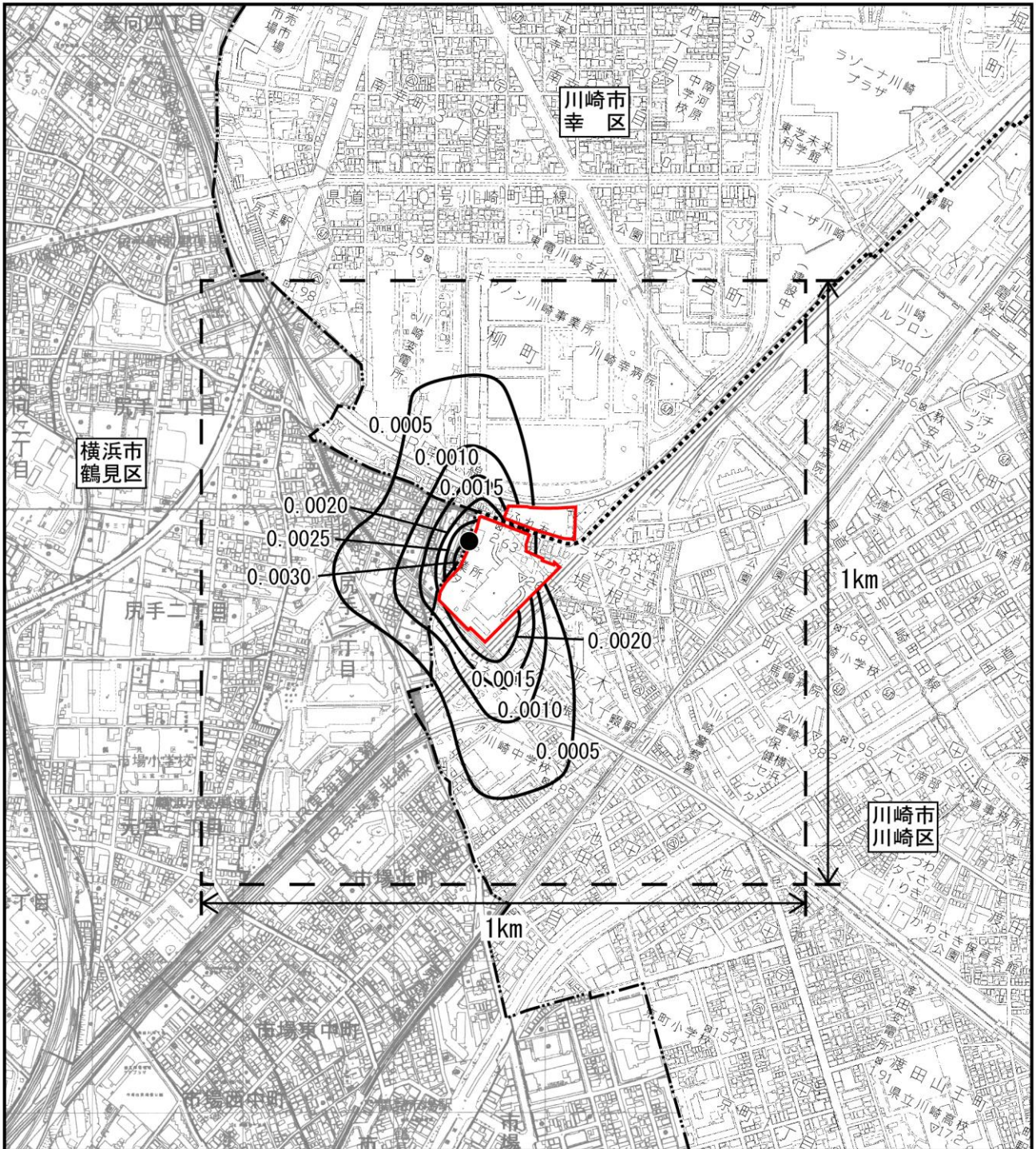
予測項目は、二酸化窒素 (NO₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) とした。二酸化窒素日平均値の年間 98% 値、浮遊粒子状物質は日平均値の 2% 除外値の将来濃度を予測し、予測地域は、最大付加濃度出現地点が含まれると想定される計画地周辺の概ね 1 km 四方の範囲とした。また、予測時期は、工事期間の中から、工事の種類や使用機械の機種、台数等を考慮して、建設機械の稼働による周辺環境への影響が大きくなると想定される工事開始後 74~85 ヶ月目の 1 年間とした。

長期将来濃度の予測結果は、表 9.2.1-23 及び図 9.2.1-5(1)、(2) に示すとおりである。

本事業による最大付加濃度にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度は、二酸化窒素が 0.040ppm (日平均値の年間 98% 値)、浮遊粒子状物質が 0.045mg/m³ (日平均値の 2% 除外値) となり、環境保全目標 (二酸化窒素 : 0.04ppm~0.06ppm のゾーン内又はそれ以下、浮遊粒子状物質 : 0.10mg/m³ 以下) を満足するものと予測する。

表9.2.1-23 建設機械の稼働に係る大気質への影響の予測結果 (長期将来濃度)

項目	年平均値				日平均値 の年間 98% 値 または 2% 除外値	環境保全目標 (環境基準)
	建設機械に よる最大 付加濃度	バックグ ラウンド 濃度	将来濃度	付加率		
	①	②	③ = ① + ②	① / ③ × 100%		
二酸化窒素 (ppm)	0.0032	0.017	0.0202	15.8%	0.040	0.04ppm~0.06ppm のゾーン内 又はそれ以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0012	0.017	0.0182	6.6%	0.045	0.10 mg/m ³ 以下



凡 例

- 計画地
- · — · 市境
- 区境
- ┌───┐ 予測範囲 (計画地周辺1km四方)
- 等濃度線 (単位: ppm)
- 最大付加濃度出現地点 (0.0032ppm)

この地図は、「川崎市 1 : 10,000 地形図 (川崎区図)」(川崎市)、「横浜市行政区図 (鶴見区図)」(横浜市)を使用したものである。

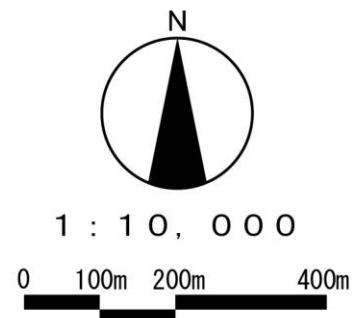
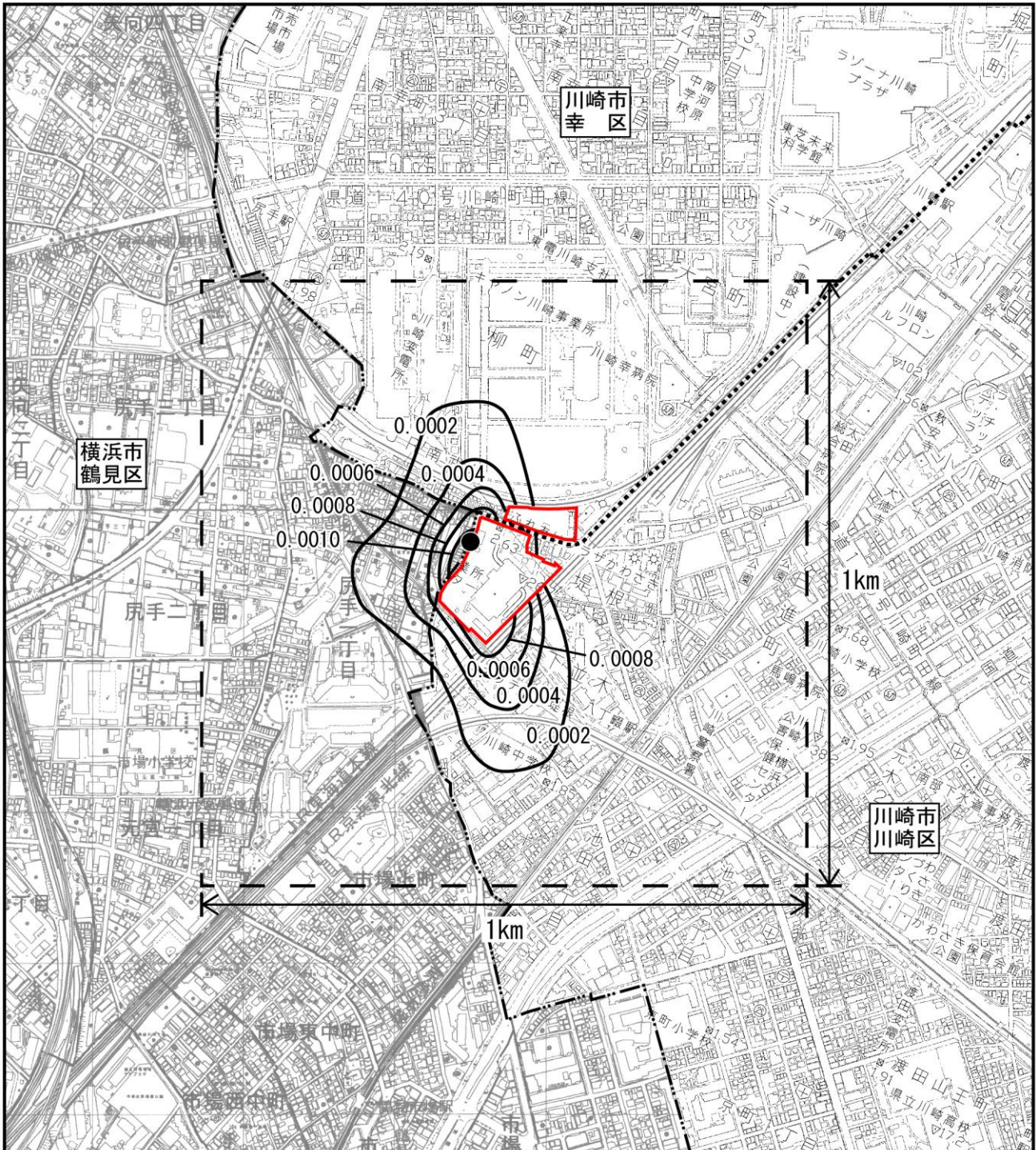


図 9.2.1-5(1) 建設機械の稼働に係る二酸化窒素予測結果
(長期将来濃度: 工事開始後 74 ヶ月~85 ヶ月)



凡 例

- 計画地
- · — 市境
- 区境
- [- - -] 予測範囲 (計画地周辺1km四方)
- 等濃度線 (単位: mg/m^3)
- 最大付加濃度出現地点 ($0.0012\text{mg}/\text{m}^3$)

この地図は、「川崎市 1 : 10,000 地形図 (川崎区)」(川崎市)、「横浜市行政区図 (鶴見区)」(横浜市) を使用したものである。

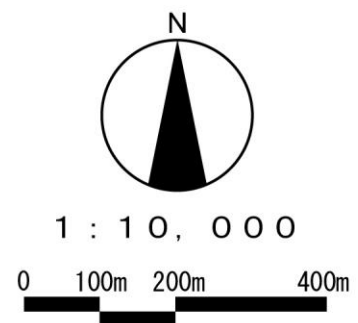


図 9.2.1-5(2) 建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質予測結果
(長期将来濃度: 工事開始後 74 ヶ月~85 ヶ月)

b 短期将来濃度予測

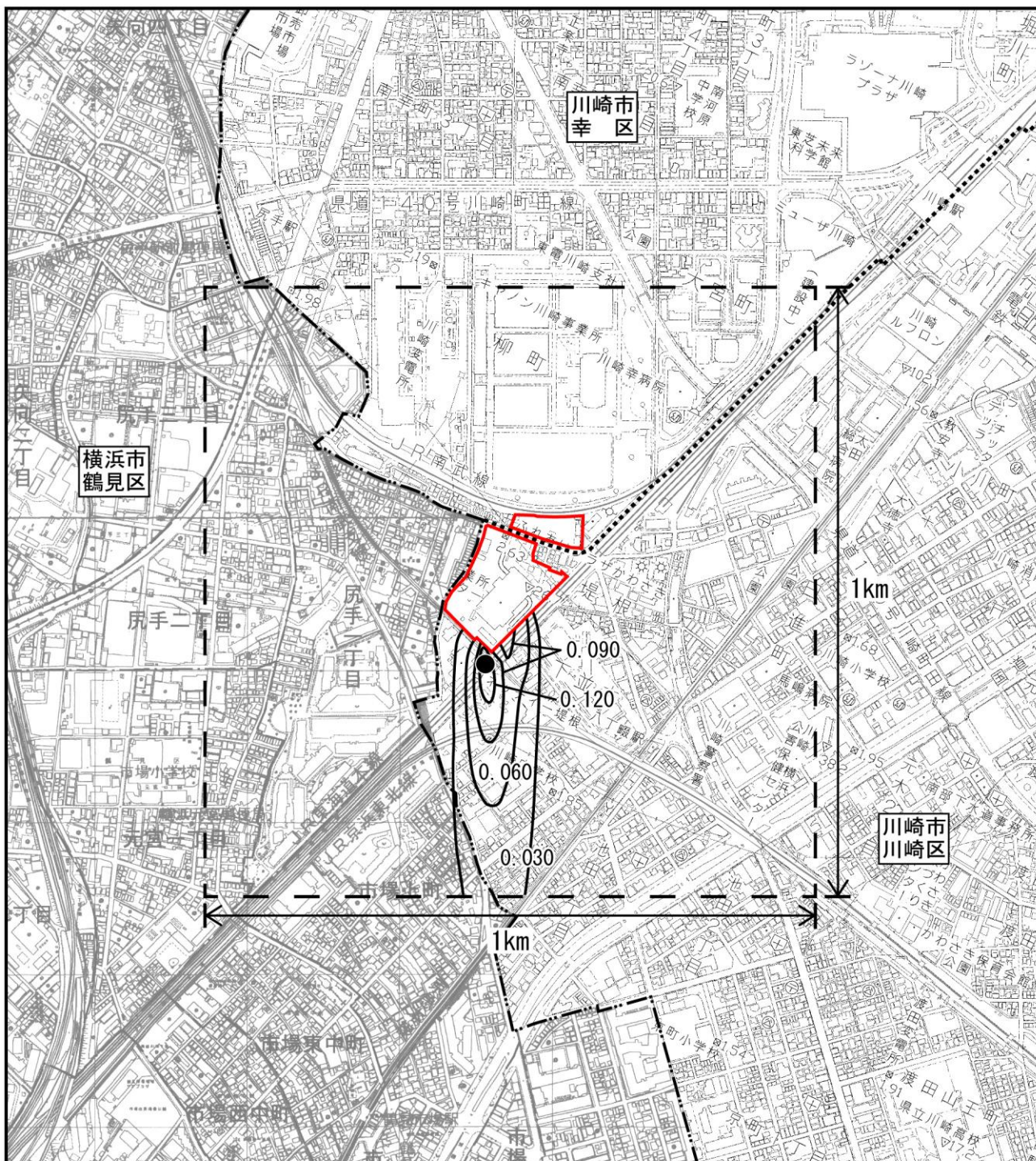
予測項目は、二酸化窒素 (NO₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) とした。1 時間値を予測し、予測地域は「a 長期将来濃度」と同様に計画地周辺の概ね 1 km 四方の範囲とした。また、予測時期は、工事期間の中から、工事の種類や使用機械の機種、台数等を考慮して、周辺環境への影響が大きくなると想定される工事開始後 76 ヶ月目とした。

短期将来濃度の予測結果は、表 9.2.1-24 及び図 9.2.1-6(1)、(2)に示すとおりである。

本事業による最大付加濃度にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度 (1 時間値) は、二酸化窒素が 0.168ppm、浮遊粒子状物質が 0.063mg/m³ となり、環境保全目標 (二酸化窒素 : 0.1ppm~0.2ppm 以下、浮遊粒子状物質 : 0.20mg/m³ 以下) を満足するものと予測する。

表9.2.1-24 建設機械の稼働に係る大気質への影響の予測結果 (短期将来濃度)

項目	風向	1時間値			環境保全目標
		建設機械による最大付加濃度	バックグラウンド濃度	将来濃度	
		①	②	③= ①+②	
二酸化窒素 (ppm)	北 (N)	0.143	0.025	0.168	0.1ppm~0.2ppm 以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	北北東 (NNE)	0.050	0.013	0.063	0.20 mg/m ³ 以下



凡 例

- 計画地
- 市境
- 区境
- [- - -] 予測範囲 (計画地周辺1km四方)
- 等濃度線 (単位 : ppm)
- 最大付加濃度出現地点 (風向 : 北、0.143ppm)

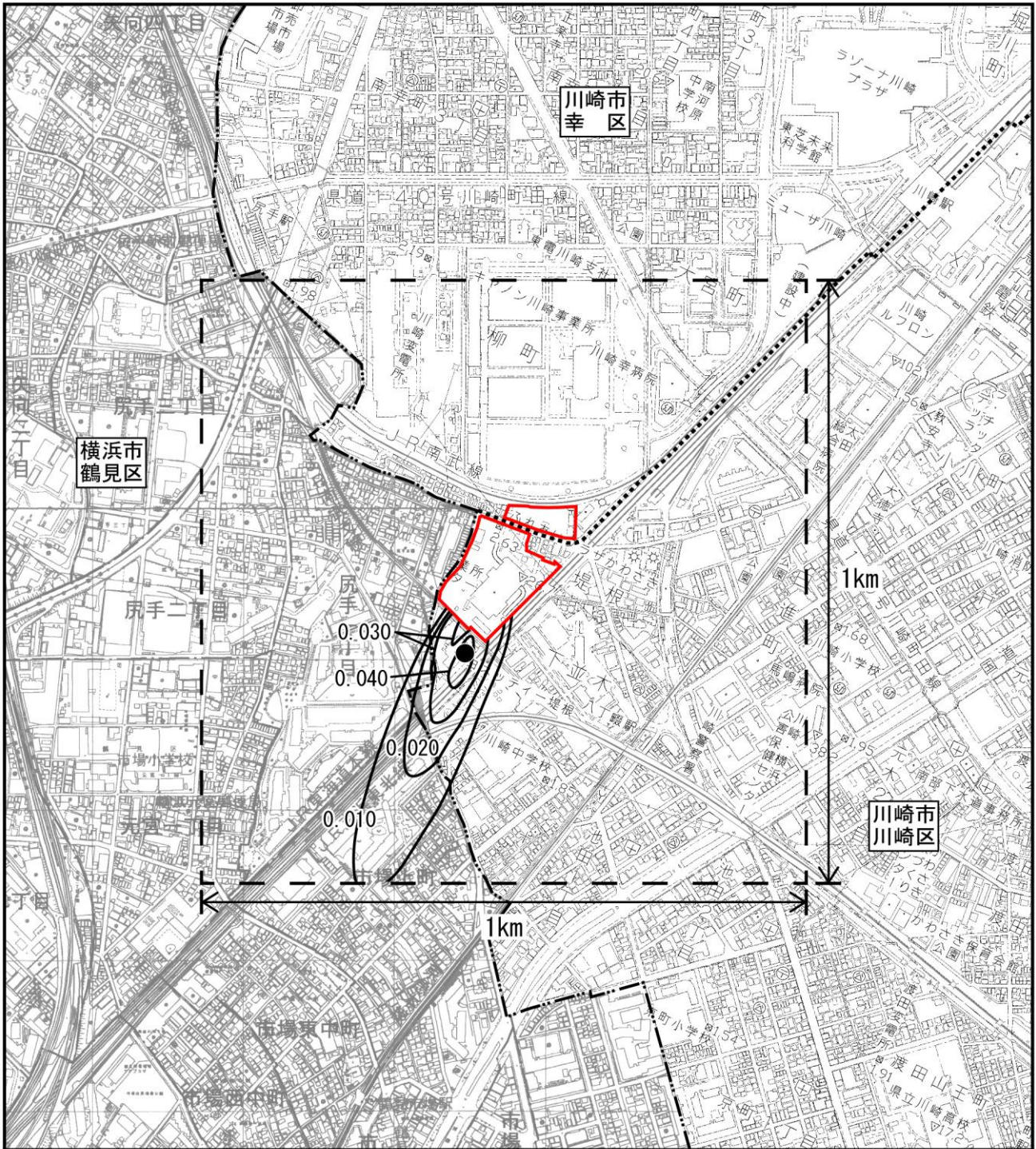
この地図は、「川崎市 1 : 10,000 地形図 (川崎区図)」(川崎市)、「横浜市行政区図 (鶴見区図)」(横浜市)を使用したものである。

図 9.2.1-6(1) 建設機械の稼働に係る二酸化窒素予測結果
(短期将来濃度 : 工事開始後 76 カ月目)



1 : 10,000





凡 例

- 計画地
- · — 市境
- 区境
- [- - -] 予測範囲 (計画地周辺1km四方)
- 等濃度線 (単位: mg/m^3)
- 最大付加濃度出現地点 (風向: 北北東、 $0.050\text{mg}/\text{m}^3$)

この地図は、「川崎市 1 : 10,000 地形図 (川崎区図)」(川崎市)、「横浜市行政区図 (鶴見区図)」(横浜市) を使用したものである。

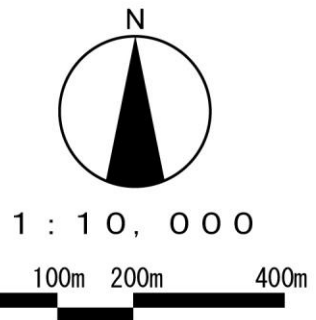


図 9.2.1-6(2) 建設機械の稼働に係る浮遊粒子状物質
予測結果 (短期将来濃度: 工事開始後 76 カ月目)

(イ) 環境保全のための措置

本事業では、大気質への影響を低減するために、次のような措置を講じる計画である。

- ・建設機械は、可能な限り最新の排出ガス対策型建設機械を使用する。
- ・建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働を行う。
- ・建設機械による負荷を極力少なくするための施工方法や手順等により施工する。
- ・建設機械のオペレーターに対して、不要なアイドリングや空ふかしをしないよう指導する。
- ・建設機械の整備、点検を徹底し、整備不良、劣化等による排出ガス性能の低下を防止する。

(ウ) 評価

建設機械の稼働に係る長期将来濃度は、本事業による最大付加濃度にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度は、二酸化窒素が 0.040ppm（日平均値の年間 98%値）、浮遊粒子状物質が 0.045mg/m³（日平均値の 2%除外値）となり、環境保全目標（二酸化窒素：0.04ppm～0.06ppm のゾーン内又はそれ以下、浮遊粒子状物質：0.10mg/m³ 以下）を満足するものと予測する。

建設機械の稼働に係る短期将来濃度は、本事業による最大付加濃度にバックグラウンド濃度を加えた将来濃度（1時間値）で二酸化窒素が 0.168ppm、浮遊粒子状物質が 0.063mg/m³となり、環境保全目標（二酸化窒素：0.1ppm～0.2ppm 以下、浮遊粒子状物質：0.20mg/m³ 以下）を満足するものと予測する。

さらに、本事業では、可能な限り最新の排出ガス対策型建設機械を使用することや建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努めるなどの環境保全のための措置を講じることから、周辺地域の大气質に著しい影響を及ぼすことはないと評価する。

イ 工事用車両の走行に係る影響

(ア) 予 測

予測項目は、二酸化窒素 (NO₂) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) とした。二酸化窒素は日平均値の年間 98% 値、浮遊粒子状物質は日平均値の 2% 除外値の将来濃度を予測し、予測地点は、工事用車両の走行ルートとなる市道堤根 2 号線、県道川崎町田線及び市道柳町 8 号線の 4 地点とした。また、予測時期は、工事期間中で大型車の台数が最大となる時期とし、工事開始後 82~93 ヶ月目、83~94 ヶ月目の 1 年間とした。

工事用車両の走行に係る大気質への影響の予測結果は、表 9.2.1-25 に示すとおりである。

本事業による付加濃度に、バックグラウンド濃度等を加えた将来濃度の最大は、二酸化窒素の最大値が 0.034ppm (日平均値の年間 98% 値)、浮遊粒子状物質の最大値が 0.043mg/m³ (日平均値の 2% 除外値) となり、環境保全目標 (二酸化窒素 : 0.04ppm ~ 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下、浮遊粒子状物質 : 0.10mg/m³ 以下) を満足するものと予測する。

表9.2.1-25 工事用車両の走行に係る大気質への影響の予測結果

項目	地点		年平均値					日平均値の 年間 98% 値または 2%除外値	環境保全目標 (環境基準)
			工事用車両に よる付加濃度	将来一般 交通による 付加濃度	バックグ ラウンド 濃度	将来濃度	付加率		
			①	②	③	④= ①+②+③	①/④ ×100%		
二酸化窒素 (ppm)	地点 1	北側	0.000014	0.000099	0.017	0.017113	0.08%	0.033	0.04ppm ~ 0.06ppm のゾーン内 又はそれ以下
		南側	0.000013	0.000094	0.017	0.017107	0.08%	0.033	
	地点 2	東側	0.000006	0.001275	0.017	0.018281	0.03%	0.034	
		西側	0.000005	0.001241	0.017	0.018246	0.03%	0.034	
	地点 3	東側	0.000005	0.000795	0.017	0.017800	0.03%	0.034	
		西側	0.000005	0.000839	0.017	0.017844	0.03%	0.034	
	地点 4	東側	0.000011	0.000081	0.017	0.017092	0.06%	0.033	
		西側	0.000007	0.000058	0.017	0.017065	0.04%	0.033	
浮遊粒子 状物質 (mg/m ³)	地点 1	北側	0.000002	0.000011	0.017	0.017013	0.01%	0.043	0.10mg/m ³ 以下
		南側	0.000002	0.000010	0.017	0.017012	0.01%	0.043	
	地点 2	東側	0.000001 未満	0.000107	0.017	0.017107	0.01%未満	0.043	
		西側	0.000001 未満	0.000104	0.017	0.017104	0.01%未満	0.043	
	地点 3	東側	0.000001 未満	0.000071	0.017	0.017071	0.01%未満	0.043	
		西側	0.000001 未満	0.000074	0.017	0.017074	0.01%未満	0.043	
	地点 4	東側	0.000001	0.000009	0.017	0.017010	0.01%	0.042	
		西側	0.000001	0.000007	0.017	0.017008	0.01%	0.042	

(イ) 環境保全のための措置

本事業では、大気質への影響を低減するために、次のような措置を講じる計画である。

- ・ 工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行う。
- ・ 工事用車両の不要な空ふかし、急加速等の高負荷運転の防止、アイドリングストップ等のエコドライブの指導を徹底する。
- ・ 工事用車両は、可能な限り最新の排出ガス規制適合車を使用する。
- ・ 工事用車両の整備、点検を徹底し、整備不良、劣化等による排出ガス除去性能の低下を防止する。

(ウ) 評 価

工事用車両の走行に係る大気質への影響は、本事業による付加濃度に、バックグラウンド濃度等を加えた将来濃度の最大は、二酸化窒素が 0.034ppm（日平均値の年間98%値）、浮遊粒子状物質が 0.043mg/m³（日平均値の2%除外値）となり、いずれも環境保全目標（二酸化窒素：0.04ppm～0.06ppm のゾーン内又はそれ以下、浮遊粒子状物質：0.10mg/m³以下）を満足するものと予測する。

さらに、本事業では、工事用車両が特定の日または時間帯に集中しないよう、計画的な運行管理を行うなどの環境保全のための措置を講じることから、沿道の大気質に著しい影響を及ぼすことはないとは評価する。